

～下田のデキゴト～



6/26 ライフセービング全国大会

第35回全日本種目別ライフセービング選手権大会が白浜大浜で開催されました。全国から400名を超える選手が集まり、優秀な成績を収めた選手は、世界選手権の代表権を獲得されました。



7/2 これば!大型遊具で遊ぼう!

朝日小学校体育館にて下田子育て支援ネットワーク主催「これば!大型遊具で遊ぼう」が行われました。約70名の親子が来場子どもたちは家の中では体験できない様々な遊具で思い切り楽しみました。



7/3 あゆ釣り大会

稲生沢川の落合地区を会場に、第67回静岡県あゆ釣り競技選手権大会が開催され、県内16チーム約120名の選手が参加し腕前を競い合いました。団体・個人ともに同じ賀茂地域の河津川チームが優勝しました。



7/11～20 夏の交通安全県民運動

夏の交通安全県民運動が7/11～20まで開催されました。11日は交通安全関係団体による早朝一斉街頭指導を市内主要交差点48か所で行われ、交通量が増える観光シーズンに向け、安全運転意識の向上を図りました。



7/20 佐々木教育長が退任

平成27年7月の就任以降、7年間下田市の教育行政推進に尽力されてきた、佐々木文夫教育長の退任式が行われました。先生時代から子どもたちの笑顔を大切にしていた佐々木教育長、長い間お疲れ様でした。



7/22～24 カジキ釣り大会

第44回となる「国際カジキ釣り大会」が3年ぶりに行われました。全国から94チーム550人のフィッシャーが参加し腕を競い合い、最大で180キロ超のカジキを含む37本が釣り上げられました。

7月の できごと

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| 1日 県青年の非行・被害防止強調月間街頭キャンペーン | 12日 市町対抗駅伝競走大会代表候補選手説明会及び決起大会 |
| 5日 シニア向けスマートフォン講座 (KDDI・スマホ・ケータイ安全教室) | 15日 市内海水浴場開設 |
| | 23日 白浜海の祭典 |

地域子育て支援センター通信

問合せ先 地域子育て支援センター ☎02200



9月の予定

- 7日(水) めだかルーム 9時～11時30分
- 9日(金) ふれあい遊び ※午後閉館(清掃・消毒)
- 12日(月) 体育館で遊ぼう 9時30分～11時
場所: 市民スポーツセンター(サンワーク)
- 14日(水) あひるルーム 9時～11時30分
- 16日(金) 誕生会
- 20日(火) 防災出前講座(起震車体験) 10時30分～
- 21日(水) うさぎルーム 9時～11時30分
- 22日(木) ふれあい遊び ※午後閉館(清掃・消毒)
- 26日(月) 発育測定・育児相談 9時～11時
栄養士講話、保健師・栄養士来所
- 27日(火) ベビーリトミック 10時30分～ 岡かよの先生
- 28日(水) にこにこサークル読み聞かせ 10時30分～

年齢別ルームのお知らせ

9月から3月まで毎月1回(午前)、同年齢(名札の色)で集まって遊ぶ日を設けます。同じ年齢のお子さんを持つ保護者同士で情報交換、親子同士でふれあう場としていただければと思います。年齢ごとの呼び名は表記のとおりです。実施日については変更になることもありますので、確認の上ご参加ください。

めだかルーム	未歳児: オレンジ名札	R4.4.2生～
第1水曜日	0歳児: 桃色名札	R3.4.2～R4.4.1生
あひるルーム	1歳児: 黄色名札	R2.4.2～R3.4.1生
第2水曜日	2歳児以上: 水色名札	H31.4.2～R2.4.1生
うさぎルーム		
第3水曜日	緑色名札	H28.4.2～H31.4.1生

ギラギラと照りつけるような日差しに夏本番を感じますね。体温調節が十分に発達していない子どもたちは、熱中症の危険性が大人よりも高まります。こまめな水分補給を心がけましょう。また、子どもたちの大好きな水遊びも本番です。子育て支援センターでは、年齢によって曜日指定の水遊び・プール遊びを行っています。詳しくは、子育て支援センターにお問い合わせください。



交通安全教室



誕生日会



おでかけ広場



親子でリズム遊び

こんにちは、市長です



前回は、昭和51年の山田太一ドラマ「夏の故郷」から、地方の衰退や人口減少問題は、ずいぶん昔からあったのだと改めて認識し、その上で「ここには働く場所がない」という声を下田市でもよく聞くところまででした。今回はその続編です。さて、ここぞ言われている「働く場所」とはいったい何でしょうか?今回はそこを掘り下げてみたいと思います。というの実は、下田市は県内でトップレベルの高い有効求人倍率を維持しているからです。ですから、「働く場所」うんぬんは、単なる求人過多(多い少ない)ではなく、若い人にとって「つきたい」と思う仕事であり、具体的なイメージとしたら、ステキな人たちが颯爽と歩く、都会の高層ビルのIT企業、みたいなものであって、彼らの言い方を借りれば、おしゃれで知的で高給な職場ということになります。

地元の高校を出たら都会に行くと専門学校や大学に進み、やがてカッコいい仕事を送る。それが典型的な成功モデルとして、若者たちはもちろん、私たち大人(親世代)にも共有されているとしたら、地方には残念な未来しか描けないのではないのでしょうか。大人たちが、「このまちは、(自分たちの仕事を含め、魅力的な)仕事がない」と考えることは、一方で豊かな自然とか多様な価値とか言って移住政策を進めながら実は、自分たちの地方の仕事を、さらには故郷のまちそのものを軽んじることになるのではないのでしょうか?

念のために申しますが、私はここで、このまちの若者たちに、「とにかく都会から戻ってきてくれ」と言っているのではありません。無論、自らの意思で故郷に戻る若者は大歓迎です。

しかし、・・・(すいません。また長くなってしまいました。結論は来月号で)